

冊子200部を小中学校に寄贈



▲「長年続けられたのはプロジェクトに参加してくれたメンバーと沿線住民のおかげ」と話す加藤さん



◀冊子は漢字にふりがなが振られ、小さな子どもでも読みやすく編集されています。

NPOいわふね地域工コセンター理事長の加藤治郎さん(瀬波温泉「丁目」が「大竜寺川」で長年取り組んできた水質浄化活動をまとめた冊子を市教育委員会に寄贈しました。

「大竜寺川」は三面川と瀬波の間を流れる小さな川で、昭和30年ごろまではフナやメダカが生息し、鮭も遡上する自然豊かな川でした。しかし、生活様式の変化した昭和40年ごろから水質が悪化し、川底にはヘドロが溜まり悪臭を放ち、生き物が生息できない環境になっていました。

この状況を見かねた加藤さんは、平成10年から沿線の住民の協力を得ながら

ら「EM菌」による水質の浄化に取り組む、今では魚や水鳥の姿を見ることができるようになりました。

冊子を受け取った市長は「元の川に取り戻そうという取り組みは、地球温暖化防止などの環境保全に資する活動。素晴らしい活動で、子どもたちにぜひ見てもらいたい」と話し、教育長は「この冊子を活用し、さらに環境教育に力を入れたい。これまでの取り組みの知見を、ぜひいただきたい」と語りました。

冊子は各小中学校に10冊ずつ配布され、総合学習などに活用されます。

岩船まちづくり協議会は、海・川・山の恵まれた自然環境の中、地域の伝統や文化を大切にしながら、住んでいて良かったと思えるようなまちづくりを目指して活動しています。

岩船地域はスポーツ事業が多く、女性や高齢者、若者が中心のもので幅広い年代の活動があり、いずれも笑いあり、涙ありで、多くの参加者が楽しんでいきます。

また、地域文化を守り、継承していく活動として地域文化祭なども行っています。かつての岩船市場のような盛り上がり再現しようとするイベント「ゆめのまちワクワク横丁」では、地元事業者、新潟リハビリテーション大学および看護専門学校の学生たちの協力も得ながら行っています。

このように地域住民の交流と親睦を深め、地域の活性化を目的に活動してきましたが、コロナ禍でできなくなったイベントもあるため、代替事業を考案したり、工夫したりしながら、活動を進めています。

笑いあり、涙あり。住んで良かったと思えるまちへ



▲ゆめのまち ワクワク横丁



▲壮年ソフトボール大会



岩船まちづくり協議会
まちづくり協議会通信

No.16

問い合わせ

岩船連絡所(岩船地域コミュニティセンター)

☎56-7001

記事ID

0012601